

日本周辺クロマグロ調査委託事業（抄録）

由木雄一・村山達朗・石田健次*¹・若林英人*²

近年の国際情勢から、クロマグロの資源管理体制の確立は必須と予想される。この調査の目的は、資源管理に必要な知見が十分でない日本周辺におけるマグロ類の漁獲データと生物学的情報の収集及び解析を行ない、マグロ類の資源評価に必要な基礎資料を整備することにある。

水産庁資源課・遠洋水研主導の下に、データの集計と解析は日本エヌ・ユー・エスが行ない漁獲状況等の調査は21道府県が協力して行なった。島根県はヨコワの魚体測定とクロマグロ及びその他のマグロ類に関する伝票調査を行なった。

詳細は「平成7年度日本周辺クロマグロ調査委託事業報告書」に報告されているので、ここでは結果の概要について述べる。

結果の概要

伝票調査

各漁協（浜田・五十猛・大社・北浜・恵曇・浦郷）の販売統計書からクロマグロ（マグロ：20Kg以上、ヨコワ：20Kg未満）、キハダ、ピンナガについて月別、漁業種別、漁獲量の集計を行なった。また、定置網で漁獲されたマグロの地区別、月別、漁獲重量と漁獲尾数を集計した。

魚体測定

浜田港・五十猛港に水揚げされたヨコワの尾叉長の測定を実施した。

クロマグロ漁況の概要

- (1) 主要市場におけるクロマグロの漁獲量は580トン、そのうち20Kg以上のマグロはわずかに1%で、ほとんどが20Kg未満のヨコワであった。ヨコワは1994年を68%上回る好漁であったが、マグロは不漁だった1994年を上回ったものの平年を下回った。
- (2) クロマグロ（マグロ・ヨコワ）は1994・1995年と2年続きで500トンを上回った。特に1995年は最近15年間で最高の漁獲量となった。
- (3) マグロは定置網で4～10月まで漁獲されているが、その盛期は5～7月となっていた。ヨコワは定置網・まき網・曳縄等でほぼ周年漁獲されており、7月以降、特に10月に集中して漁獲された。
- (4) 定置網で漁獲されたマグロの体重は20Kg～180Kg台となっていたが、そのほとんどが100Kg未満で、特に20Kg～60Kgの小型個体が多かった。
- (5) 曳縄（7月）と大中型まき網（9、10月）で漁獲されたヨコワの尾叉長は40～67cmの範囲にあり、モードは7月が42cm前後、9月が57cm、10月が61cm前後となっていた。

* 1 鹿島浅海分場

* 2 栽培漁業センター